

新たなタイプの学校（idealスクール）

1 校名案

みやぎけん ひろせ あいである こうとうがっこう

宮城県広瀬ideal高等学校

2 選定理由

「広瀬」は学校の所在地であるとともに、地域の歴史と文化を体現している。またideal（アイデアル）は、新たなタイプの学校のタイプ名として長く使用されてきた。「理想、理想的な」という単語そのものの意味だけでなく、1文字ずつに意味が込められており、まさに新設校の理念を余すところなく表している。

宮城広瀬高校を転換し、多様な生徒たちの個に応じた学びを実現する学びの場として開校する高等学校にふさわしい名称であると判断したものである。



3 校名決定の流れ

校名等選考委員会の設置（令和7年6月）

↓ 転換する学校の関係者及び地域関係者による校名等選考委員会を設置

公募（令和7年7月～令和7年8月末までの約2ヶ月間）

↓ WEBサイトと官製ハガキ → 応募総数276件（重複を除くと245件）

校名等選考委員会で校名案を選考（令和7年10月）

↓ 当該校予備調査・選考委員事前審査で16案 → 4案を県教委に報告

県立学校校名選定委員会で新校名案を選定（令和7年11月）

↓ 教育庁内に設置される組織
校名等選考委員会から提出された校名案に基づき新校名案を選定

教育委員会定例会に報告（令和8年1月）

↓ 新校名（仮称）を発表

【予定】文教警察委員会に報告（令和8年1月）

↓

【予定】県議会で条例改正（令和8年2月）

4 学校の概要

- 設置課程 全日制・普通科・単位制
- 募集定員 200名
- 設置場所 宮城広瀬高校を転換して、新設

5 特色ある学び（学校設定教科・科目）

生徒個々のニーズに対応する多様で魅力的な学び

(1) 様々な進路希望に応じた教科・科目を開講

国公立大学の受験から、学び直しまで、様々な生徒の進路、興味・関心に対応する多様な科目を設置

(2) 魅力ある学び

複数の大学と連携して、学校設定教科・科目を開発中

① 探究系の科目

- ・ 知識だけでなく、活用できる力を身に付けたい生徒
 - ・ 自分で考えて、工夫して、行動できる人になりたい生徒
- ⇒ 教科の枠にとらわれない横断的な学び、様々な設計された探究をとおして「気づき、説明仮説を立て、検証する」ことで、本質を追求し、論理的思考力、主体性・自律性を育てていきます。

② 体験系の科目

- ・ 卒業後、就職を目指している生徒
 - ・ 自分に合っている職業が何か悩んでいる生徒
- ⇒ アントレプレナー教育のデザイン思考、ビッグデータ分析等を学んだり、年間をとおして、週に1回職業体験を行ったりすることで、積極的に挑戦する姿勢・発想・精神性を身に付けたり、様々な業種で経験を積み、職業観を学び、自分に合った職を見つけることができます。

③ ICT系の科目

- ・ ソフトウェア、プログラミングなどが大好きで、とても興味がある生徒
- ⇒ 実践的なソフトウェア、プログラミングについて深く学ぶことができます。

④ 学び直し系の科目

- ・ 学ぶ意欲を持っており、基礎から学び直しをしたい生徒
- ⇒ 5教科（国語、数学、理科、社会、英語）のそれぞれの学び直しの科目や、3教科（国語、数学、英語）セットの学び直し科目を学ぶことで、基礎基本が定着し、自信をもって、学びを続けることができ、自己効力感が向上します。

【教室での学び方も多様】

例えば、学び直し科目の中では、自分で学習する分野を選び、自分で学習計画を立て、自分のペースで学習を進める「自由選択、自由進度学習」を実施する予定です。

さらに、友達と協働したり、個人でAIアプリを活用したり、先生にサポートしてもらったり、講義動画を活用したりと様々な学習方法から、自分で選択して組み合わせ、学習に取り組み、学び方を学びます。



学び直し系の授業のイメージ

※★の画像はChatGPTで作成したイメージです

大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校

1 校名案

みやぎけん おおさき そうせい こうとうがっこう

宮城県大崎創成高等学校

2 選定理由

「大崎」は、新しい学校の所在地を示し、「創成」は、再編対象校の松山高等学校・鹿島台商業高等学校・南郷高等学校の学びを継承し、これからの社会に必要な専門的な知識や技術を身に付け、地域社会の活性化に貢献できる人材を育成するという意味が込められている。

また、専門科目で「農業・家庭・商業」の各分野を学ぶことができ、「食」をテーマとする専門教育を展開し、社会的・職業的自立に必要な能力を持った生徒を育成することを目指す学校の特色を表している。

大崎地区（東部ブロック）の専門教育を担ってきた上記3校を再編して、生徒達の新たな学びの場として開校する高等学校にふさわしい名称であると判断したものである。



3 校名決定の流れ

校名等選考委員会の設置（令和7年7月）

↓ 再編する学校の関係者及び地域関係者による校名等選考委員会を設置

公募（令和7年8月～令和7年9月末までの約2ヶ月間）

↓ WEBサイトと官製ハガキ → 応募総数203件（重複を除くと173件）

校名等選考委員会で校名案を選考（令和7年11月）

↓ 選考委員事前審査で48案 → 6案を県教委に報告

県立学校校名選定委員会で新校名案を選定（令和7年11月）

↓ 教育庁内に設置される組織
校名等選考委員会から提出された校名案に基づき新校名案を選定

教育委員会定例会に報告（令和8年1月）

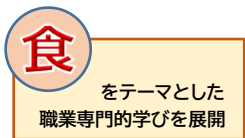
↓ 新校名（仮称）を発表

【予定】文教警察委員会に報告（令和8年1月）

↓
【予定】県議会で条例改正（令和8年2月）

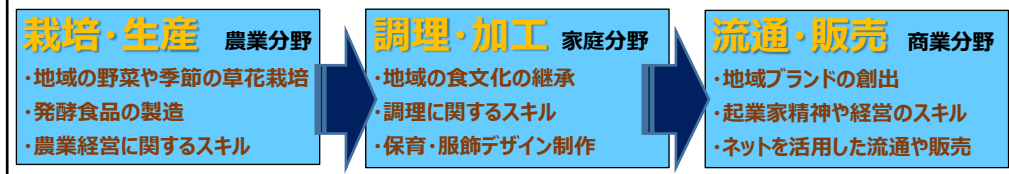
4 学校の概要

- 設置課程 全日制・単位制
- 募集定員 160名
- 設置学科 (仮称) アグリ・フード・ビジネス科
- 設置場所 鹿島台商業高等学校敷地内



- 特 色
- (1) 統合対象校の「農業」・「家庭」・「商業」の学びを継承し、それぞれの専門分野の連携・協働により6次産業化について学ぶ。
 - (2) 地域資源を活用し、地域ブランドの創出や魅力化に取り組む。
 - (3) 県内高校初となる「カフェ棟」を設置し、学校で生産した農産物等を活用しながら、生徒が企画、調理・加工、販売する「高校生カフェ」を運営する。

<6次産業化の学びのイメージ>



5 特色ある学び（学校設定教科・科目）

学校設定教科「6次産業化」

農業・家庭・商業を学び、それを組み合わせた授業を展開

6次産業化について学ぶための多様な科目（科目名は仮称、一部を抜粋）

- ① 6次産業化学
6次産業化について学ぶ上での基礎となる「家庭×商業」を学ぶ
- ② 6次産業化研究
各専門分野の基礎と6次産業化の実例を学び、3分野からテーマを選び探究し、更に細分化されたテーマを選び探究活動を行う
- ③ 大崎耕土学
世界農業遺産に認定された大崎耕土の「農業」の歴史・伝統を学ぶ
- ④ 醸造
発酵食品製造の成り立ちや醸造食品製造における知識・技能を学ぶ
- ⑤ Farm to Table I、Farm to Table II
洋菓子の調理や、パンなどの軽食実習を行う
- ⑥ 食文化実習
郷土料理や漬物など、地域の食文化について実習を通して学ぶ
- ⑦ キャリア探究
地元企業と連携し、起業家マインドや経営のノウハウを学ぶ
- ⑧ 地域ビジネスプランニング
地域と連携し、ビジネスの視点から地域課題を解決に向けた活動を行う